

Neues in Nara

Nr.70

2020年1月24日



Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daianji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)

編集委員より：会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています！

●行事予定

第25回シュタムティッシュ

2月16日(日)15時より大安寺催事棟で、会員の土谷真理子さんに話題提供頂く予定です(詳細、裏面の案内を参照願います)。

●行事報告

1. クリスマス会

当会恒例のクリスマス会は、12月8日(日)17時より「北京料理 奈良百楽」にて開催、大阪神戸ドイツ総領事館よりヴェルナー・ケーラー総領事ご夫妻と通訳の金子沙織さんにご参加頂き、総勢40名を超える参加者で開幕。河野会長の開会挨拶の後、和やかな歓談の輪が一気に広がった。なかでも天理大学留学生のバルメルト(Balmert)とその友人マイス(Meiss)両君のユーモア溢れる活躍が場の雰囲気の大いに盛り上げた。さらに平尾英治さんの日独歌謡で、会は一層なごやかに進んだ。フィナーレは、岡田由美子さんのピアノ演奏に乗せてドイツと日本の歌を全員で合唱して今年の名残を惜しんだ(左上写真参照)。



2. 第24回シュタムティッシュ

11月10日(日)大安寺催事棟にて16時から会員のManfred Ringhoferさんから「東西ドイツ再統一前後から現代までの東西関係」と題して話題提供頂き、「ベルリンの壁崩壊」から現在の東部ドイツの現状に至るまで、詳細な資料を交えて展開された。

壁崩壊から30年、東西ドイツには依然として格差が存在することが指摘された。



3. 第3回料理教室

12月14日(土)奈良市生涯学習センターで開催、土井ギーゼラ先生のご指導を受け、Lebkuchen(レープクーヘン)、Spekulatius(シュペクラティウス)などクリスマスケーキを作り、みんなで楽しく頂きました。

4. カニジウス校オーケストラとの交流会

10月10日一行30名と平城宮「天平うまし館」で交流会(当会後援)が開催され、当会より8名が参加した。

5. 近畿地区日独協会新年会

2020年1月11日(土)、大阪梅田「アサヒスーパードライ」で開催された。

(裏面もご覧ください)

●会員だより

工樂(くらく)猛志さん(ドイツ Düsseldorf 在住)から

「ドイツの学校を振り返って」

私がドイツの高校(Gymnasium)を卒業してからかなりの月日が経ちました。そして今年から久しぶりのドイツ生活が始まりました。今となっては当時一緒にドイツの学校に通っていた友人の中には子供ができて、その子供たちが私たちと同じ学校に通っている方もいらっしゃる。

その友人と久しぶりに再会して会話していると環境がずいぶん変わってきたなと感じました。私たちが学校に通っていたころは、Grundschule(小学校)が4年間、その後進路を決めて、進学コースはGymnasiumで9年間、つまり13年間学校に通っていました。授業は、10年生まではクラス方式で、日本と違いクラス替えは一度もありませんでした。高校卒業のAbiturの成績は、12・13年生の成績と試験で決まりました。試験は筆記が3科目と面接が1科目の合計4科目でした。ただ、Abiturは学校毎に統一されておらず、試験内容が学校によって全く違うというのが当時の実情でした。

最近では、Gymnasiumは1年減り、小学校入学から高校卒業までは日本と同じ12年が変わってきています。またZentral Abiturが多くの州で導入され、統一化が進み、学校ごとのばらつきはなくなってきているようです。ある意味国際化が進んでいるのかもしれませんが。試験では、面接の代わりにプレゼンテーションも選択できるようになっています。最近のPISAのランキング(リーディング)を20年前のものと比較しますとドイツは2000年22位から2018年は11位に上がっているのはレベルが上がっているのでしょうか。

工樂猛志さん
(アーヘン大聖堂で)

Düsseldorfのクリスマスマルクト



マルクトのスケートリンク

若手会員(JGN)からの活動報告 芹沢友香

11月3日(日)に大安寺国際縁日が開催されました。奈良日独協会はJGN(奈良日独協会若手会員)メンバー3人(芹沢、森田、小野)で毎年恒例の「ドイツボードゲーム体験会」を開催しました。約10種類のドイツボードゲームの無料体験とドイツや奈良日独協会の基本情報をパネルで紹介しました。今年は天候もよく、50人を超える方にボードゲームの体験をしてもらう事が出来ました。



第25回シュタムティッシュのご案内

下記の通り第25回シュタムティッシュのご案内を致しますので、お誘いあわせの上、奮ってご参加下さい。

< 記 >

話題：「私が研究者として歩んだ道のり」

日時：2020年2月16日(日)15時～16時30分

場所：大安寺催事棟

話題提供者：協会会員の土谷真理子(つちやまりこ)様

プロフィール

昭和57(1982)年奈良県生まれ

2001年に帝塚山高等学校を卒業、大阪大学に入学

2011年大阪大学文学研究科博士後期課程(ドイツ文学専修)を単位取得満期退学。

姫路獨協大学、大阪市立大、京都工芸繊維大、大阪大学でドイツ語非常勤講師として働き、出産とともに退職。現在は大阪大学にドイツ語非常勤講師として勤務。

2019年住友生命「未来を強くする子育てプロジェクト」の人文・社会科学分野の子育て中の女性研究者への支援部門で受賞。

土谷真理子様から

「スミセイの研究者支援賞を受賞したのを機に、同賞の周知も兼ねて会員の皆様に今取り組んでいる文学研究について紹介します。学部時代はドイツ古典主義の劇作家シラー、大学院からはゲーテの韻文作品を修辞、音響など多角度から分析して作品解釈を行なっています。執筆中の博士論文では、よりマクロな視点で、ドイツの18世紀後半から好んで書かれるようになった自然詩のジャンルと、18世紀以前は忌避されていた自然大国スイスとの関係を解き明かそうと試みます。支援を受けて夏に行なった、ドイツの図書館での文献調査についてもお話しします。」

※ 茶菓子・飲み物は自己持参。アルコール可、但し乗り物利用者は厳禁。

参加お申込・問合せ先：協会理事 林まで(電話又はメール)

tel:090-8168-4549

e-mail: hayashiy@zeus.eonet.ne.jp

尚、事前連絡無くても、当日お時間空きましたら、どうぞお出で下さい。また、ご友人で本テーマにご興味のある方は、会員以外でも、どうぞお誘いください。

以上